

## 第2回 最上川上流大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

日 時：平成28年9月12日（月）10時30分～12時00分

場 所：山形商工会議所 大ホール（5F）

委員出席：20市町のうち15市町出席（首長は5市町出席）

報道機関：テレビ（NHK、山形テレビ、さくらんぼテレビ、テレビユー山形）  
新聞社（読売新聞、朝日新聞、山形新聞）

**議事：**「最上川上流の取組方針（案）」について説明を行い、本内容で承認を得、地域の取組方針を策定するとともに、今後の継続的なフォローアップを行うことを確認した。

以下は、主な発言内容

- ・ 気象変動の中の連携を密にして頂いていることに感謝を申し上げる。
- ・ 台風9、10号時の対応について、タイムラインに予定されていた行動と実行動との突き合せを行い、より実践的なものになるようにフィードバックを行なっている。それによって現実的な対応を取ることができるものと考えている。
- ・ 避難所の開設は早めの方が良いと感じている。自主避難を促すために、予防的に避難所を開設して自主避難を促す自助の観点が必要と考えている。今後検討していきたい。
- ・ 自主防災会の立ち上げや活動を強化している。
- ・ 住民の意識改革や実践的な訓練の取り組みにつながる事例として紹介したいが、自主防災組織で避難経路や避難行動を図上で確認し、浸水想定区域図を基に危険個所を話し合った。参加者が実際に避難することをイメージすることで、主体的に避難する意識付けを行なった。
- ・ 台風9、10号のような台風が、一過性ではなく常に来る、という想定のもとに行動していきたい。
- ・ 昭和44年以降災害がなかったが、平成25年7月豪雨で、支川の沢の氾濫や土石流が約300ヶ所あった。災害を風化させないことが必要である。
- ・ ハザードマップが平成27年度に完成し、これを基に各地区で意識改革の取組を行っている。
- ・ これと合わせて、災害の情報の発信（防災行政無線、個別受信機）の整備を推進するとともに、自主防災組織の強化を行なっている。

- ・ 昔は寒河江川で家屋流出もあったと聞いているが、寒河江ダムの整備により寒河江川の氾濫が解消され、安心して生活できている。
- ・ 大雨の際には、山形河川国道事務所から排水ポンプ車の設置で尽力頂いている。
- ・ 羽越水害以降、大きな水害がなく安心感があるが、今の雨の降り方を見るといつ何があるか分からない。
- ・ 首長の災害対応に関する目標設定（災害死 0）を明確にすることについて、防災アドバイザーからアドバイスを頂いた。
- ・ 羽越水害の教訓を継承していくことが課題である。災害を風化させない取り組みを行なっていく。
  
- ・ 台風 10 号に関する脅威についてあれほど情報開示されている中で、避難準備情報、避難勧告が出せなかった。そういう状況があることを、首長は考えなくてはならない。
- ・ 避難準備情報、避難勧告の発令の難しさを感じており、首長としてその判断を磨き上げなければならないと考えている。
- ・ 羽越水害以降、置賜白川の河川整備、白川ダムの整備が実施され、かなりの洪水が発生しても問題ないと実感している。
- ・ 中小河川の整備がなかなか進まないことを鑑み、ハザードマップを常に見直すことが必要である。
- ・ 間伐材がそのまま放置されているところが多く、ゲリラ豪雨等によって間伐材が一気に河川に流下する可能性もある。そのようなことを想定した、河川、砂防の対策を考えていくことが重要である。

以上